

お世辞にも東京新聞のウェブサイトに、充実していると
は言い難い。電子書籍が普及
し始め、米国では生き残りを
かけて新聞各社がインターネ
ットのコンテンツを含めたビ
ジネスモデルの開発に躍起に
なっている現在、「新しい新
聞のあり方」を考えてみるも
いいのではないか。

野田首相の原発に対する態
度は就任一カ月あまりがたっ
ても、いまだによくわからな
い。9月13日の所信表明演説
で原発依存を減らすのかと思
いきや、国連の原子力安全首
脳会合では、再稼働に前向き
な姿勢を示した。24日の社説
「脱原発は国内向けか」で
「もっと強いメッセージを」
と指摘したのは、他紙が日米
首脳会談に注目していた中で
よい反応だった。筆者もその
趣旨に同意する。

しかし今後、首相の原
発に関する発言や政府の
対策を、それなりに多忙
な日常を送る私たちが、
膨大な政治の言葉や、報
道の中から拾い上げ、検
証していくのは、実は困
難な作業である。日本の
新聞記事は「統報」的に
書かれ、背景や経緯を説明し
てはくれないことが多いの
で、過去記事を自分で探して
「復習」しなくては理解でき
ない。だから、まず本紙のウ
ェブサイトには読者がもっと
記事を検索し、さかのぼれる
機能を強化してほしい。

優秀な記者もたくさんいる
のだから、例えば「野田政権
の原発・エネルギーに関する
発言のデータベース」を作っ

未来の「紙面」をネットに



奥村 信幸

てみてはどうか。首相就任会
見や衆院予算委、参院予算委
の閣僚答弁なども含め(首相
周辺のオフレコ懇談などの情
報も欲しいが、この話はあら
ためて書きたい)、検索、比
較できるものが欲しいと思う
人は多いだろう。

発言の自身は全文をそのま
ま読みたい。記者のメモを公
開してくれるのが望ましい
が、官邸や民主党のホームペ
ージへのリンクを張るだけで
も、さしあたって構わない。そ
れを動画で見たい人もいる。
未来の記者はインタビュアー
などのビデオ撮影も自分でやる
ことが必要になるだろう。

それぞれの発言について記
者の「評価」を付けて欲し
い。原発についての姿勢は一
貫しているのか、それとも、
ぶれているなら何が原因なの
か、誰かに配慮しているの
か、官僚の作文による安
易な発言なのかーなどの
解説で読者の理解は進む
はずだ。

東京新聞には長谷川幸
洋論説副主幹のように紙
面以外で積極的な発信を
している人がいる。彼ら
の記事が東京新聞以外の
サイトに掲載されているのは
非常にもったいない。将来の
新聞のネット・コンテンツは
紙面以外の切り口も提示し、
読者も意見を書き込めるよう
にするなど、一方的な情報提
供ではなく、社会的な議論を
リードしていくような「場」
として構想を練ってほしい。

(立命館大学准教授)

※この批評は最終版を基に
しています。

新聞を「読んで